



早川農興  
はやくわ むつひろ てるこ  
早川 睦弘さん・照子さん

**interview** 難しい時代を乗り切りたい

「新型コロナの影響でお客様が減ってしまったので、ECサイトに挑戦しようと思いました。出店後は、関東や九州など、全国から注文がくるようになりました。注文した人から、とてもおいしかったとメールをもらったときは嬉しかったですね。高齢なので、もう今年で終わりにしようかなと思う時もありますが、お

客さんの『おいしかったよ、またよろしくね』の言葉に励まされ、ここまですべて続けてこれました。お客様さんたちには感謝の気持ちでいっぱいです。これから農業は大変になっていくと思います。米は必要経費も上がってきているし。これを作ればいいという万能のものがあるわけでもない。難しい時代ですが、頑張っていきたいです」



発送の準備の様子。「野菜ソムリエサミット」で銀賞を獲得した枝豆を全国に届けます▶



宮路農場  
みやじ としゆき  
宮路 敏幸さん

**check** 枝豆 Bar はじめました！

「ツバメクロスアクションズ」(7ページで紹介)のメンバーでもある宮路さん。飲食店を通じた地元野菜のPRを市から受託したことから、今年の夏は、ほかの農家さんと手を組んで、ざるいっばいの燕市産枝豆とドリンク1杯を1000円で提供する取り組みをしています。



枝豆は鮮度が味や香りに出る野菜。9月いっぱいまで提供できるそうですので、朝もぎの鮮度のよい枝豆をぜひ、食べてみてください。

**interview** 周囲のおかげで今がある

「去年は飲食店関係で打撃を受けつつ、好調なスーパーや直売所で持ち直しました。今年も影響は残っていますが、周囲の人々のおかげでやっていけています。過去に色々な人と出会い、イベント参加や食育活動などに取り組んできたことが今を形作っていると思います。気にかけてくださる方々に本当に感謝しています」

「少しずつ変わっていく時代に順応していかなければ。失敗から得るものもある。とにかくやってみる」。宮路さんの挑戦は続きます。

**新たな販路で見出す活路**  
早川農興

「ECサイト出店」  
20年以上枝豆を生産しているという早川さんは、今年から、産地直送型通販サイト「新潟直送計画」に出店しています。コロナ禍で下落した売り上げの全てをカバーできるほどではありませんが、新たな販路として注力しています。

サイトに出品しても、必ず買い手に選ばれるわけではありません。だからこそ注文がくるのがとても嬉しいのだそうです。

●「コロナ後も頑張りたい」  
コロナの対応策として始めた取り組みですが、コロナが落ち着いてからも続けていきたいと話します。

「市場ではどうしても価格が変動しますが、ECサイトは金額が安定しているのが強み。今後も積極的に活用していきたいですね」



㈱アグリシップ  
さとう ひろゆき おこし ともひろ  
佐藤 広幸さん・小越 智央さん

**check** たゆまぬ改善でよりよい技術へ

大型トラクターや各種アタッチメント、GPS、ドローンなど、先進技術を多く導入しているアグリシップ。都度工夫を凝らしています。今年は薬剤を散布する箇所、静電気を発生させるアタッチメントを取り付け、これにより、梨の受粉の着果率を向上させます。昨年、ドローンを使った直播栽培(初めから田んぼに種を蒔いて稲を育てる方法)のアタッチメントをカスタマイズ。



金属部分で静電気を起こす▶

**農業大学校の実験に協力**  
2年前から研究機関とも連携。手作業で行うのが一般的な梨の受粉を、特別に調合した溶液をドローンで上空から散布し、その効率化の研究を行っています。



れにより、今まで口伝や経験に頼っていた部分をデータ化してしっかりと残していくことができます。『若い人たちがこれから魅力を感じて農業の世界に来てくれるような、そういう体制を少しでも作ってほしい』そう話してくれたのは、代表の高波さん。「良き友であり良きライバル」である構成員たちと共に、これからも進み続けます。

**農業に変革を**  
㈱アグリシップ

●進むオートメーション  
㈱アグリシップの持ち味は、最新鋭のマシンと技術。特に農業用ドローンにおいては、種まきから防除まで行うことで、かつてない短時間の作業を実現しています。昨年は梨の受粉の実験も。そして今年、企業と組んでオーダーメイドのドローン開発にも着手しました。

●高齢化の波と新規就農  
ドローンによる防除の依頼は年々増えてきており、農家の高齢化は無視できません。「農家ばかり休みなく働いて

ているようではダメ。効率的に仕事をすることで、若者が参入しやすくなると思う」。そう話す佐藤代表。その下で働く小越さんは、両親は農家ではありませんでしたが、高校で外部講師をしていた佐藤さんと出会い、農業の世界に飛び込みます。新しい農業技術を見つけては、二人で積極的にチャレンジしています。高齢化と担い手不足が問題となる中、アグリシップの活動は若手就農者の目標となることでしょう。

**常にチャレンジ**  
宮路農場

●コロナ禍での挑戦  
アスバラガス農家の宮路さん。7年前に就農したときから、枝豆も育てています。「毎年好評だったので、今年は思い切って」。コロナ禍でも作付面積を昨年の2倍に増やし、脱莢機も導入しました。

●時代に順応する  
現在は、従来の時期よりさらに遅く収穫できる品種の枝豆に挑戦。栽培がうまくいけば、大きなビジネスチャンスになります。

※脱莢機…自動でさやと茎や葉を選別する機械